

2. 火山の概況

(平成 16 年 4 月 15 日 ~ 平成 16 年 4 月 21 日)

十勝岳ではごく小規模な噴火が発生した。

浅間山では地震がやや多い状態が続いた。火山活動度レベル (以下レベル) は 2。

三宅島では噴煙活動が継続した。

阿蘇山では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。レベルは 2。

桜島では噴火が発生した。レベルは 2。

薩摩硫黄島では降灰があった。

口永良部島では微動が一時やや多く発生した。

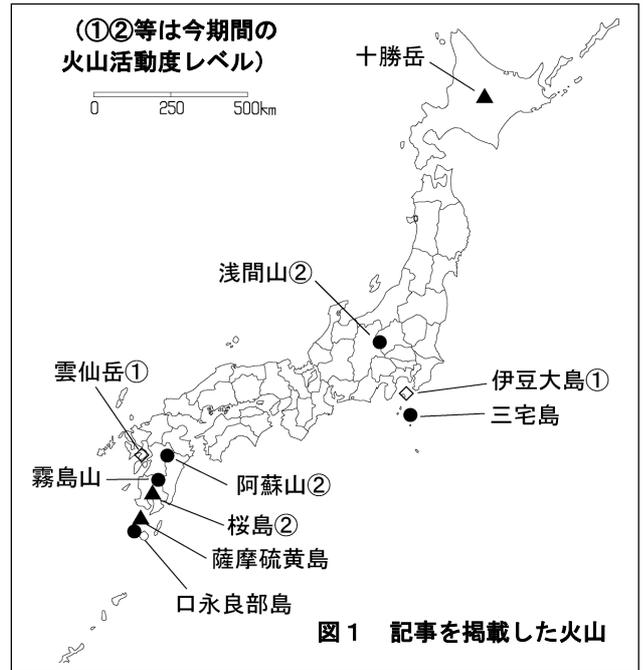


図 1 記事を掲載した火山

表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島	十勝岳	三宅島	霧島山	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島	
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号								
17	4/15- 4/21	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	▲	▲	●	●	▲	●	
16	4/8- 4/14	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●	●	●	
15	4/1- 4/7	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	●	●	●	●	●	
14	3/25- 3/31	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	▲	▲(※)	●	▲	●	▲	
13	3/18- 3/24	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	●	●	●	▲	●	▲	

(※: 気象庁職員が山頂付近で作業を行った際に、山頂付近に限定されると思われる微弱な降灰を確認した。これまでも同様の現象はあったものと思われる。)

注 1 記号の意味

- ▲: 噴火した火山
- : 観測データ等に变化があった火山
- ◆: 前期間まで▲や●で掲載した火山の、その後の状況等
- ◇: その他記事を掲載した火山
- ①②等の丸付き数字: 火山活動度レベル

注 2

本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

▲ 十勝岳 [噴煙・微動]

19 日 10 時頃から振幅の小さな微動が観測され約 40 分間継続した。この間 10 時 10 分頃からは 62-2 火口の噴煙が有色に変わり、強風のため火口縁上 100~200m の高さで東または北東に流されていた(図 2)。噴煙の勢いや高さは通常と比べて変化なく、12 時頃には白色の状態に戻った。噴煙が有色になったのは少量の火山灰が混ざった状態となったためと推定される。有色噴煙の前後で火山性地震の増



図 2 4 月 19 日 10 時 45 分頃の噴煙の状況 (62-2 火口の北北西約 6 km に設置した高感度カメラによる)

噴煙の勢いや高さは通常と変わらないが、微動発生約 10 分後に白色から火山灰混じりの有色に変わった。

加は見られず、空振計にも変化は認められなかった。

十勝岳では、同様な現象が2月25日～26日に発生し、4月9日と12日にも悪天のため噴煙の確認はされていないが小さな微動が観測されている。

これらの現象は、地震活動等の状況から見て、本格的なマグマ活動に起因したものではなく、浅部における地下水や火山ガスの関与した小規模な現象と考えられ、今後も同様の現象は繰り返す可能性がある。

● 浅間山 [地震・微動・熱] レベル2 (やや活発な火山活動)

振幅の小さい地震は、昨年6月末頃からやや多く観測されるようになってきているが、今期間も29～69回とやや多い状態が継続した。振幅の小さい微動は16日に9回、15、18、19日に各1回の合計12回が観測された(前期間は10回)。

赤外線カメラ(群馬県林務部が火口縁に設置)では、火口底に引き続き高温部が確認され、前期間と同様に、一時的にその面積が拡大する現象が時折見られた。

◇ 伊豆大島 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなかった。

● 三宅島 [噴煙]

白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出しており、期間中の高さの最高は火口縁上1,000mであった。

振幅の小さいやや低周波地震は、1日あたり2～30回と少ない状態で推移した。

GPSによる地殻変動観測では、昨年6月頃から始まった三宅島の収縮傾向が継続している。

● 阿蘇山 [熱・土砂噴出・微動] レベル2 (やや活発な火山活動)

中岳第一火口では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。

16日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰色、湯量は約3割(前期間も約3割)で、湯だまりの表面温度の最高は75℃(前期間76℃)、火口壁の最高温度は348℃(前期間391℃)と依然高温状態にあった。湯だまり中央部で約5mの土砂噴出がみられた他、湯だまり南西縁の噴気孔から勢いよく噴気を噴出していた。

期間中、連続微動を観測した。また、孤立型微動は今期間632回発生し(前期間は658回)、依然として多い状態が継続している。

噴煙は白色で、噴煙の高さの最高は火口縁上200m(前期間500m)であった。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

◇ 雲仙岳 レベル1 (静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

● 霧島山 [噴気]

16日に御鉢で火口縁を越える噴気が遠望カメラで観測され、その最高は火口縁上200mであった。火山性微動は観測されなかった。

▲ 桜島 [噴火] レベル2 (比較的静穏な噴火活動)

17日に噴火が1回発生した(噴火の発生は3月27日以来)。噴煙の高さの最高は火口縁上1,700m(灰白色)であった。鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)では、昨年11月19日を最後に降灰は観測されていない。

▲ 薩摩硫黄島 [降灰]

三島村役場硫黄島出張所によると、15日、18日及び19日に集落(硫黄岳の西南西約3km)で少量の降灰が確認された。微動は発生しなかった(前期間1回)。

● 口永良部島 [地震・微動]

地震の発生は、2月2日に多発して以降増減を繰り返しているが、今期間も短時間に集中して発生することはなく、期間中の合計は20回であった(前期間は11回)。火山性微動は15日～16日にやや多発し(15日は14回、16日は6回)、期間中の合計は23回であった(前期間は5回)。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第208号	15日 09:30	活動経過ほか(噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想)。
	↓(1日2回発表) 火山観測情報第221号	↓ 21日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第24号	16日 11:00	火山活動は引き続きやや活発(連続微動発生、小規模な土砂噴出多数発生、湯だまりの高温状態継続)。レベルは2。